

| | | | | |
|---------------|---------------|----------|----------------------------------|-------------|
| 心理学実験Ⅱ | | 単位数 | 履修方法 | 配当年次 |
| | | 2 | SR(実験) | 1年以上 |
| 科目コード | FB2506 | 担当教員 | 中村 修・吉田 綾乃 平川 昌宏・平泉 拓 | |

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということ明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

- 1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。
- 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマにのっとった意味づけ（考察）をすることができる。
- 3) 研究記述のフォーマットにのっとって、レポートを作成することができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

- 1) 高野陽太郎・岡 隆編『心理学研究法——心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ、2004年
- 2) 『福祉心理学科スタディ・ガイド（第3版）』東北福祉大学（初版または第2版でも可）

（最近の教科書変更時期）2015年4月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄をご覧ください。

■スクーリング講義内容・進め方

「心理学実験Ⅱ」では、下記の4つの実験を体験します。受講生をグループに分け、1グループ1種目ずつ、①実験についてのオリエンテーション、②実験の実施、③データの整理・分析、④実験レポート作成という一連の作業を行います。翌日は、別の種目を経験し、4回ローテーションして全種目を終わることになります。

仙台以外のスクーリングでは、実験種目、担当者、実験スケジュールが下記とは変更になります。また、レポート課題についても、若干の変更があります。コマごとの内容は、『試験・スクーリング 情報ブック』5部でご案内します。

▶実験受講ガイダンス：実験の意味・実験レポートの書き方・オリエンテーション

▶実験1「系列学習法」 (平川昌宏 担当)

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な3タイプのうち系列学習法(ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法)を実践し、系列位置効果(呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるかで学習しやすさに差があること)について調べます。

▶実験2「鏡映描写」 (平泉 拓 担当)

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として、鏡映描写の実験を体験します。運動技能の上達過程を検討し、^{りょうそくせい}両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

▶実験3「概念学習」 (中村 修 担当)

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目(抽象)し、また他の特性群を無視(捨象)することによって、任意のカテゴリー(概念)を「心」の中につくりあげていると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます(ところで何が同じ?)。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

▶実験4「社会的影響」 (吉田綾乃 担当)

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

■スクーリング時の教科書

教科書は使用しません。実験に必要な資料を配布します。

■スクーリング事前学習

『福祉心理学科スタディ・ガイド』のII章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方も、ホームページ上で「福祉心理学科で学ぶために」のところから実験に関する原稿を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいってください。

■在宅学習9のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|-------------------------|--|---|
| 1 | 実験と観察 (教科書1) 第2章) | 実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。 | 暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。 |

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|--|---|---|
| 2 | 実証の手続き (教科書1) 第3章) | 研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。 | 例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。 |
| 3 | 独立変数の操作 (教科書1) 第4章) | 実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。 | 条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。 |
| 4 | 従属変数の測定 (教科書1) 第5章) | 従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。 | 従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。 |
| 5 | 剰余変数の統制 ①：固体内変動の統制 (教科書1) 第6章) | ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。 | 実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。 |
| 6 | 剰余変数の統制 ②：直接的な統制 (教科書1) 第6章) | 実験計画を立てる際に、研究者だけが考えた剰余変数の統制だけでは危険な場合もある。先行研究や文献から、これまでどのような要因の影響があることが分かっているか、という文献研究の重要性を理解する。 | 実験を実施したあとで、考慮に入れていなかった剰余変数がでてきてもやり直しがききません。あらかじめ先行研究などから考慮すべき剰余変数を把握しておきましょう。また、交互作用という現象とその解釈について、理解しておくことが重要です。 |
| 7 | 仮説とその検証 (教科書2) IV章49・50 p. 195～204) | 心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。 | どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。 |

| 回数 | テーマ | 学習内容 | 学びのポイント |
|----|---|--|--|
| 8 | 独立変数・従属変数とデータ収集法 (教科書2) IV章51 p. 205~211) | 仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。 | データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかけるとともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。 |
| 9 | 各自が選んだ単位認定レポート課題 | スクーリング終了後1課題選択。 | 選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。 |

■単位認定レポート課題 スクーリング終了後1課題選択

| | |
|---------------------|--|
| 課題① (担当) 平川昌宏 | 系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。 |
| 課題② (担当) 平泉拓 | 一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。 |
| 課題③ (担当) 中村修 | 次の4つの尺度について、日常生活の中から2つずつ例を挙げて、違いを説明しなさい。また、なぜ尺度をこのような4つに分ける必要があるのか、考察しなさい。①名義尺度 (nominal scale), ②順序尺度 (ordinal scale), ③間隔尺度 (interval scale), ④比率尺度 (ratio scale)。 |
| 課題④ (担当) 吉田綾乃 | 社会的手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。 |

■アドバイス

上記の課題から1つ選びp. 31記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、16ページめまでを使用し最長4,000字程度まで記入していただいても結構です (パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。

課題1 アドバイス

スクーリング時の解説、配付する資料を参考にまとめてみてください。

課題2 アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておく、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしてきた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独特のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずですよ。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。ちなみに、日常動作で見られる転移の例として報告されたものとしては、

- ・非利き手での箸の持ち方や卓球練習の上達具合・パソコンのキーボード操作の学習・耳掃除の手の使い方・マニキュアを左右の手で塗る時の動作学習・水泳練習時の手の動きの学習・流れ作業で袋詰めする動作を立ち位置を逆にした場合の混乱など、いっぱい見つけられることと思います。

課題3 アドバイス

この課題では、4つの尺度の概念弁別がきちんとなされているかが評価ポイントとなります。心理学の本というよりも、統計学、心理統計学、心理学研究法などの入門書などを参考になさった方がいいかもしれません。例を挙げて説明してもらうのは、調べたことを使って自分で考えたんだ！自分で見つけたんだ！というヨロコビを味わっていただきたいからです。ぜひお書きください。参考図書欄には、手元にあった文献のなかから少しあげておきます。

課題4 アドバイス

スクーリング時の解説、配付資料ならびにスクーリング時に紹介する参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけでなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

■参考図書

課題1：スクーリング時に紹介します。

課題2：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題3：山内光哉著『心理・教育のための統計法〈第3版〉』サイエンス社、2010年

岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、2003年

課題4：アロンソン、E. 岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル 第11版 人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

本間道子著『集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミクス 集団と群集の心理学』有斐閣、2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学 よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年

■スクーリング受講上の注意

- ・筆記用具、定規、電卓を持参してください。
- ・「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」の受講の順序の指定はありません。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングは、どちらを先に受講していただいても結構です。

■レポート提出期限

- 実験レポート（4課題とも） スクーリング終了約10日間後の指定された期日必着
単位認定レポート 12月24日必着（再提出レポートは左記以降も可）
- ・10月以降の休学予定者＝単位認定レポートを9月末必着
 - ・9月卒業希望者・10月生科目等履修生＝8月末必着

■評価の方法・基準

評価は、①それぞれの実験において指示された内容についての4つのレポートと、②スクーリング終了後に提出してもらう単位認定レポート1課題に基づいて行います。①に関しては、1種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなりますので気をつけてください。②に関しては、「単位認定レポート課題」に示す4つの課題の中から1つを選び、指定期間内にレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

レポート評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。